

燃料電池の仕組み学ぶ

環境に優しいエネルギーについて学ぶ中学生対象のイベントが、JX日鉱日石エネルギーの中央技術研究所（横浜市中区）で7月下旬に行われました。子どもたちに仕事のやりがい伝える活動をする団体「フューチャーイノベーション フォーラム」が主催し、約20人が参加しました。

JX日鉱日石エネルギーは、石油以外にも様々なエネルギーを研究しており、この日は主に燃料電池について説明してくれました。

まず、簡単な燃料電池を組み立てながら、水素と酸素を化学反応させて電気をつくる仕組みを学びました。排出されるのは水で、二酸化炭素が出ない点が特徴です。

二酸化炭素出さないエネルギー

実用化されている家庭用燃料電池を見せてもらいました。都市ガスなどから取り出す水素と、空気中の酸素を使って発電し、家庭電力の一部を賄います。発電時に発生する熱で湯を沸かすこともできるそうです。

実証実験中の燃料電池自動車に試乗しました。ガソリン車との違いは、排ガスではなく水が出ること。普及までには、水素を供給する施設の整備や、費用の削減などの課題があり、研究が続けられています。

このほか石油を精製する様子や、自動車の燃料やオイルを開発する施設の見学なども行われました。

20代の研究者の方々の話も聞きました。岩崎俊之さん（26）は、中学生の頃、新聞の天気図を見て天気を予想することが好きだったそうです。図書館で気象関係の本を眺めているうちに地球温暖化の本に出会い、環境問題に興味を持ったといいます。

岩崎さんは「この経験が今の仕事につながっていると思う。何かに触れることがあれば大切にしてほしい」と話していました。

△ヨミウリ・ジュニア・プレス取材班＝中1・小黒夏子、中2・飛弾洋佑、高2・佐々木凌記者▽



研究者の手伝いしてもらいながら燃料電池を組み立てるジュニア記者（右から2人目）